HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第10巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市発生史論。
Issue Date	1953
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77385
Type	manuscript
File Information	N020_01S28.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

SUPERIOR NOTEBOOK
MADE FROM FINEST PAPER

都市社會學

二十八年度
林3集講義案
第十卷

都市發生史論

都市北私と祭展史説

人と人との社会的接触の様々なる形態
同志しい都市的な生活構造の中にお
てなければ
て真実文化は発生し成長しないであろう
とは一般に考えられているであろう。人と人との
社会的接触の様々なる形態がなければ
いは共住が近接していてもそれが何
の交わりもないであろう。居住の近接もまた
人の社会的接触の様々なる形態を生ぜしめる何ら
の保障ではない。然しては文化の発生成長
の為には共住と近接とそして最も
重要な条件となるであろう。

無くは
人間が作り出す芸術や文化の集大成
とも言うべき前衛文化を芸く成長させよ
う前衛芸術家は生活を
(明治維新が近代文化を)
(創造した)
よう、彼等の集団生活を
基本的集団生活
もっと個人の自由を認めるべきである
色々の集団形式をなどと
考えるべきである。

松涛幼稚園のアイヌ部落は注目すべき
(私立の民家園を作って)
アイヌの生活形式、即ち家族のかたまりに
よる共住と民族的な集落形式の中心文化が
便やかに成長することを望むなり。

今日世界に比べ文化の貧しい
ような民族の歴史、歴史をもつ
な住居形式、家がないなどと
(ない)
(ない)

尽なしけれども、私ども小さい頃は
村落共同体的な村落をなしていたことを思い起こさせる
ものが一つの例としてはゲンマン民族の社会である。
タキタスのいうゲルマニアの時代には中流
ゲルマンの部落をつくっていた。
古代ゲルマニアの部落には生産地
現実の宅地や宅地の助力により法律についての
紀元二千年頃ゲルマンは
法と散在的な部落形式を
おこなっている。これらの点からすると
タキタスの時代の

その前に二千年の歴史を持つ古代ローマ文化のあったことを忘れてはならないでしょう。

ケルマニアが古典古代ローマ文化の影響を受けたのは、ローマの国境線を越えて侵入した軍事力の力によるものだけでなく、それ以前から交易などによる平和的な交流があったからこそ、ローマ文化を受け入れる素地があったのです。

ゲルマン民族は、紀元五世紀の西ローマ帝国の滅亡後、中世封建社会を形成していきました。

ゲルマンの社会は、部族国家から出発して、多くの変遷をへて、封建社会へと発展していきます。

ゲルマン民族が古典古代文化の影響を受けて、中世封建社会へと発展していく過程を、ゲルマン民族の最も中枢的な運動

重視したのは、林業を形成していた
部落を成立せしめる林業(窯元の)
を始めたならば
中心をなしている
つまりこれらの
を総括は、どこから学んだのであるか。
(やきもの)
文化の中から木を木とし紙
自身の
学を化文の外にかくのようなものの前学
が眼に映ってそれのまねか(我々)
白から物をを窓外せしめられる(ことよ)
かそれは色を意見をこころ、あろう
けれとし紙をかく窓外の女性と紙
の文化の器をは川をかれ(を始めたり)
が活躍になれる(同じ的でよ)

井子実、中世初期の区切りは荘園の下が、有し印章は未だ有しなかった時代があった。

印が、荘園と同様に世、耕をもたらすものとして（密な人のみより広まったと）尽くしてきた（かもしれない）。何かが非中央的人に（地方的）荘園制的私有を広く（多く）認めた（地方的権力）ものと見ることは（それは）可能（地方的権力）である。印章は（地方的）権力をもつ（地方的）ものとして（地方的）成長してきたと見ることは（それは）確かである。荘園のみの有した財力を考えるとき、井の内の数つかの非中央的有力者（地方的）権力をもつ印章を印章とする。かくして荘園と印章の時代があったと思います。そして最も純な印章（印章）は民衆の印章（荘園の時）

口字を基本形として口字を形成する。
次のような順序で口字文形成されるとの見方はこの点です。
①先ず我が国の古代の平城京や口分田の形
②在地から都の宮殿まで都市へ変遷する
③もとは方形な一。
④はるか同一物を辿って行くと古代都市は
⑤宮居的な基本的な一辿ると小はなおなお
⑥私の事務所の発見の根拠をお示しする
⑦次です。又都市の成立を私有
⑧に私有地制度に成立です。
改めてこれで大体中世の姿が

甲口でしょうが

大化にはつでいきちゃってるかも。
多くの村落の発生過程に郡司一家が登場
と言う感じです。

民族内の居住形式は大体村落
からでその内から漸次村落が郡
になるのかは、その郡司が代
々つながっていくかどうかにある
甲口郡となったのでは水辺の順序
が当然の順序と考えられる。
甲口ここにいた。その子孫は甲口
郡になった。
甲口のさい代、平城京
出土木簡には、村落内には
村落がかなりあったことが
確認されている。
郡司甲口家の時代
はなかったのだと思います。
甲口水辺私は文化発展の人為的なも

来位し強硬をふくい民族内を平安
なるかめを場合には事態は悪化
の場合は全部ものと思うこと。
けれども文化のある民族は常に
有するところの民族自体の内
に自然発生的な心発生成長する事実
形式の変化は時として急激な変化
形式の変化は有する。それを私は
厳密的な合理的な進行と認めるのである。

※ 一、私は申込みにはなし
かに印章の種類のあります
印章をよく、それは次の
ような印章の有名なそれであ
ります。
六、ハカタ 一二の印章
は十三、
ナニワ、ナゴヤ
機能をおしてもあります。

一、印章の元
印章の起源を述べよ
よ多くの人はかくの如き起源に
ます印章の有名は口宗教的
の式をこれを可能であります
※これ以外にもかくしたかも知れ
少くとも以前印章のもの
機能の一部のそれぞれ
はあったに相違ない。
※印章的機能の中
から起めて陰に陽に
たであろう。印章は一般
たのでなく現めて陰に陽に
まで、その十二、印章は
る。

クーラン・ジュの古代都市は私共より
都市文化の特は芸術化し祝
宴化した生活であろう。又あれは
都市国家の発生の生活であって
都市の発生の活動はないが都市
のそれはあの前に既にあったもの
ともみよう。

村落の発生が相隣った村落
村落から都市の発生は時
として前都市的なあなの発生
即ち都市的機能の一つの発生
には色々の状態があるが
人の巫女が於へ居れば

その油に印判の拡大されたもの、
めたとか、毎つき一分かそこらの
印判拡大鏡もしくはとか、
拡大鏡のこと。

印判拡大鏡の一つは二つが
並べてあり、印判にかぶせて
もとおなじ大きさに二個ずつ
ならべる。

印判の起源は文化史的に印判
が時代的にかぶせた時の記念
品へまたは、今日でも判子が
それをしてその模様へ相互
にかわすのを民族に印判が
これ時の模様と今日かぶせた
模様とは同じ、一つである。

氏神や産土神になる。我と同様で
ある。
けれども人々がそれぞれの祖
かうの祖先崇拝は古代の日本
独特出来たものの
なかゝ多数たゞろゝ部落が
すの中と、ロクロをよくする人のゝ
ゝに、又はよい土のある
土器を作る人が集まる、又部
部族の様、一つの
氏神は同じではない。
文化の発展は祖先
考に学ぶ
代が若い方向もつていた
ものである。

印章の型式と、印章の
名称とは、次に掲げる通り
である。

「代表取締役」という印章の
型式は、次の様、印章
第一号様式の型である。